

【『マーケティング史研究』 投稿規定】

『マーケティング史研究 (Japan Marketing History Review, JMHR)』は、「マーケティング・流通分野における歴史研究の成果を広く公開するとともに、研究交流を活性化すること」を目的としています。

1. 本誌は、マーケティングの実践史、マーケティングの理論史、それらの研究方法に関する論稿を掲載します。
2. 本誌は、「マーケティング・流通分野における歴史研究」を広く網羅します。また、一般に、マーケティング研究が消費者行動論を有力な一分野として含んでいることに鑑み、消費史、消費文化史研究もマーケティング史研究の一環として受けつけます。
3. 本誌は、現代に関する実践または理論の場合も、研究が歴史的視点から行われている場合は、現代史研究として受け入れます。

本誌に投稿する際の詳細な投稿規定は以下の通りです。

① 投稿の資格

- ・ 投稿者（複数名の場合には第1著者）は、マーケティング史学会の正会員・名誉会員・院生会員に限りま。ただし、非会員の方でも、入会申し込みを事務局が受け付けた時点から投稿を認めま。
- ・ 論文の二重投稿を禁じます。投稿論文は、他誌に掲載されておらず、かつ投稿中でないものに限りま。すでにある言語（たとえば日本語）で他誌において掲載された論文を別の言語（たとえば英語）に翻訳しただけの論文は、本誌の掲載対象とはなりま。ただし、自身の既存の研究を基礎に新たな論文を別の言語で書き起こしたものについては、編集委員会においてその掲載の可否を判断するものとしま。
- ・ 査読の結果が「条件付き受理 — マイナーな訂正・再査読なし」もしくは「訂正の上、再査読」となった場合に、1年以内に特段の理由なく修正稿を再提出しなければ、編集委員会は当該論文を掲載不可（リジェクト）として取り扱いま。
- ・ 「条件付き受理—マイナーな訂正・再査読なし」もしくは「訂正の上、再査読」の査読結果を受けてリライト期間中の論文を他の雑誌に投稿する場合は、必ず編集委員会に対して当該論文の本誌への投稿取り下げを申請してください。
- ・ 単著論文の投稿および共著論文の筆頭著者としての投稿は、掲載決定に至るまで原則として一度の投稿に限ることとし、同時に複数の論文を投稿することは認められま。

② 投稿原稿の種別と様式

- ・『マーケティング史研究』に掲載される原稿の種別および規定字数は下記の通りです。
(注、参考文献リストを含む)
- 論文 16,000 字から 38,000 字程度
(英語論文の場合は 8,000～19,000 words 程度)
- ※ ただし招待論文に関しては字数の規定を特に定めません。
- 研究ノート 6,000 字から 16,000 字程度

(英語論文の場合は 3,000～8,000 words 程度)

- 書評 6,000 字から 12,000 字程度
- 書籍紹介 2,000 字から 4,000 字程度
- 研究会報告要旨 800 字から 1,600 字程度

- ・ 論文と研究ノートには日本語要旨(300-400 字程度)と英文サマリー(250 words 以内)の両方をつけてください。日本語要旨と英文サマリーは上記の規定字数には含まれません。
- ・ 原稿書式は、A4 縦置き、横書き(40 字×40 行)として下さい。
- ・ 1 ページ目には、論稿のタイトル(日本語と英語の両方)、執筆者名、所属機関・職位(または所属機関情報の代替・補足として履歴など、40 字以内)、連絡先(e-mail)、キーワード(3～5 語)程度を記載してください。2 ページ目には日本語要旨と英文サマリーを記載してください。3 ページ目以降に本文を記載してください。また、参考文献リストはページを改めてください。
- ・ 節・項・目は、「1.」、「1-1.」、「1-1-1.」のように統一して下さい。
- ・ 原則として投稿用フォーマットを使用して MS-Word 形式のファイルで投稿して下さい。
- ・ 句読点は「,」、「.」を使用してください。
- ・ 数字は全角ではなく半角文字を用いてください。
- ・ 図表には通し番号とタイトルをつけて下さい。図と表は区別せず、例えば「図表 1」として下さい。
- ・ 図表は上記の原稿の分量に含まれるものとします。小さな図表(半頁以下)は 800 字、大きな図表(1 頁相当)は 1,600 字として換算して下さい。なお、グラフを Excel 等のソフトで作成している場合は、そのグラフの作成に使った元データも添付して下さい。図版の場合はなるべく鮮明なものを別に添付して下さい。
- ・ 図表・写真を引用して掲載する場合は、引用元の著作権所有者からの使用許諾を得たうえで、図表・写真の下に、著作権所有者からの使用許諾を得た旨を明記するとともに、そのことを証明するもの(手書きのサインのない電子メール等を含む)を投稿時に合わせて提示して下さい。
- ・ 注は脚注ではなく後注として文末にまとめて表記して下さい。注には連続番号をつけて下さい。また、原則として説明注に限るものとして、引用については全て本文中に表記して下さい。注は必要最小限にとどめてください。
- ・ 論文末に参考文献リストを記して下さい。
- ・ 審査に際しては、匿名のレビューによるピア・レビューを行います。本文中には、投稿者の氏名・所属を示すような記述をしないように注意して下さい。「拙稿」や「拙著」など、投稿者の特定につながる表現の使用は避けて下さい。加えて、提出原稿ファイルの作成者名も空欄にしておいて下さい。

③ 参考文献リストの記載方法

- ・ 日本語文献、英語文献、その他言語の文献を分けて記載して下さい。それぞれの中にサブカテゴリー[政府・団体・企業等刊行物、研究文献、電子資料等]は設けしないで下

さい。

- ・ 日本語文献は 50 音順，英語文献はアルファベット順に並べ，その他言語は各言語の慣習的順序に従い整序して下さい。
- ・ 第 1 著者が同一で，第 2 著者が異なるときは，刊行年ではなく第 2 著者の姓によって整序して下さい。
- ・ 同一著者の，あるいは同一配列の共著の文献がいくつかある場合には，早い刊行年のものから順に並べて下さい。同一年に刊行された文献がいくつかある，あるいは，本文への引用の際の省略表記が同一となる場合，刊行年のあとに，アルファベット小文字 a, b…を付して区別して下さい。
- ・ ひとつの文献が 2 行以上になる場合は，2 行目以降をインデントして下げて下さい。また，通し番号や記号等は，各文献の表記の前に付さないで下さい。（投稿用フォーマットを参照して下さい）。
- ・ 引用する文献が複数の著者による場合，日本語文献の場合は「，」，英語文献の場合には「and」を使って下さい。英語文献で 3 名以上の著者による場合には，「A, B, C, ..., and X」というように表記して下さい。参考文献リスト内では「他」や「et al.」等を用いずに著者すべてを記して下さい。
- ・ その他の個別・具体的な記載方法については以下の通りとします。

A) 日本語文献の場合

- ✓ 単行本：著者名（発行年）『書名』出版社名。
光澤滋朗（1990）『マーケティング論の源流』千倉書房。
マーケティング史学会編（2019）『マーケティング学説史：アメリカ編Ⅱ』同文館出版。
- ✓ 単行本等所収論文：著者名（発行年）「タイトル」（編者名『書名』出版社名，所収ページ）。
橋本勲（1966）「マーケティングの成立と展開」（森下二次也・荒川祐吉編『体系マーケティング・マネジメント』千倉書房，3-34 ページ）。
- ✓ 雑誌論文：著者名（発行年）「論文タイトル」『掲載誌名』巻号数，掲載ページ。
小原博（2018）「日本マーケティング学説史考：大泉行雄・商業の本質への根源的学究者」『社会科学論集』第 154 号，1-13 ページ。

B) 英語文献の場合 * 著者名のファーストネームは略さず記す。

- ✓ 単行本：著者名（発行年），タイトル，出版者名。
Kotler, Philip and Kevin L. Keller (2016) *Marketing Management*, 15th ed., Boston; Tokyo: Pearson.
- * 邦訳書がある場合はカッコ内に表記して下さい。
Alderson, Wroe (1957) *Marketing Behavior and Executive Action*, Homewood Illinois: Richard D. Irwin. (石原武政，風呂勉，光澤滋朗，田村正紀訳（1984）『マーケティング行動と経営者行為』千倉書房。)
- ✓ 単行本等所収論文：著者名（発行年），“論文タイトル，” in 編者名，タイトル，出版者名，所収ページ。

Berg, Thomas L. (1962) “Designing the Distribution System,” in Williams D. Stevens ed., *The Social Responsibilities of Marketing*, Chicago: AMA, 481-490.

✓ 雑誌論文：著者名（発行年）“論文タイトル,” 掲載誌名, 巻号数, 掲載ページ.

Keller, Kevin L. and David A. Aaker (1992) “The Effects of Sequential Introduction of Brand Extensions,” *Journal of Marketing Research*, 29(1), 35-50.

C) オンラインで公開されている文献の場合

doi が付けられているものについては doi を記して下さい。doi が付されていないものについては「Retrieved from ...」のように記して下さい。

薄井和夫, ジョン・ドーソン (2012) 「ヨーロッパ家電小売業の競争構造：ユーロニクス, ディクソンズ, メディア＝ザトゥーンの国際化戦略」『社会科学論集』137, 15-43.

<https://doi.org/10.24561/00016963>

Hamfi, A.G. (1981) “The Funny Nature of Dogs,” *E-journal of Applied Psychology*, 2 (2), 38-48.

Retrieved from <http://ojs.lib.swin.edu.au/index.php/fdo>

☆ 本誌がオンラインにおいて公開されるジャーナルであることから, 書誌・オンラインの双方で公開されている文献については, なるべく DOI や URL を併記してください。

D) 新聞・雑誌等の定期刊行物の場合

「松下幸之助氏死去」『日本経済新聞』（夕刊）1989年4月27日, 1面。

E) 政府・団体・企業等刊行物の場合

商工省編『工業統計表』1940-1941年, 工業新聞社出版局（『工業統計表』と略記）。

④本文中における文献の引用方法

- ・ 橋本（1966）, (Alderson 1957: 216)というように記して下さい。
- ・ 日本語の文献で複数著者がいる場合には, 鈴木・佐藤（1990）, （鈴木・佐藤 1990）のように, 「・」（中黒）を使って下さい。
- ・ 英語文献の場合, 2名の著者による文献を引用する際には, (Keller & Aaker 1992) のように「&」を使用して下さい。3名以上の著者による文献の際は, (Kotler *et al.* 2017) のように略記しても構いません。
- ・ 政府等刊行物や新聞記事等を指示する場合は, 本文中に（『日本経済新聞』yyyy年mm月dd日）等と挿入して下さい。文献名は, 論文末の文献一覧に明示した略記を用いて構いません。
- ・ 一次資料を指示する場合は, 本文や参考文献一覧には含めず注にのみ表記して下さい。所蔵館は初出時以外省略して構いません。

「大正元年〇月吉日前期・大福帳」『高瀬家文書』（西脇市郷土資料館所蔵）